



園児たちがかわいく「^{ぎん}吟じます」

「しょうねん おいやすく がくなりがたし〜」とかわいい声が響いてきたある日の桐原幼稚園。11月16日は、今年度初めての5歳児61人の「詩吟教室」でした。指導するのは堀上町在住、公益財団法人関西吟詩文化協会「翔吟会」会長の小嶋峰翔さん。約43年、詩吟に携わっているそうです。桐原幼稚園では、11年前から教えていて「お腹から声を出すことは健康に良い。今後、学校で漢詩に出会った時、幼稚園で習ったことを思い出して興味を持ってくれたら」と話しておられました。その思いに応えるように、一生懸命に吟じる子どもたちでした。



天然記念物ハナノキがあるお寺

11月22日、秋晴れの中、長光寺で柴燈護摩&人形供養&マルシェが行われました。参加者の願いが込められたマンダラめり絵の巨大アートも登場。マルシェには、テイクアウトのちらし寿司やおやつ、アロママッサージ、アクセサリ、雑貨などの16店舗が並び、にぎわいました。儀式が始まると厳かな空気に一転。同じ空間・時間を共有できるっていいなあ〜。地域の皆さんが気軽に集える場所にしたいという長光寺さんの思いが伝わる一日でした。



1月末まで

近江八幡駅口南北がイルミネーションで華やぐ

近江八幡駅口の南北で毎年恒例のイルミネーションがともり、駅利用者らを癒しの明かりで迎えています。南口は近江八幡ライオンズクラブが設置。「おかえりおつかれさま」のメッセージと、その周囲に施された雪だるまや雪の結晶などの電飾とともに夜空に浮かび上がります。北口はびわ湖八幡ロータリークラブと近江兄弟社高校インターアクトクラブが協働して設置。「松明結」をテーマに、松明が燃え、火の粉が舞い上がる様子や平和の象徴であるハトが空にはばたいていく様子などを約3万個のLED電球で色とりどりに表現されています。ともに1月31日まで点灯します。



江頭町公民館で伝統のしめ縄づくり

コロナ禍の中、令和3年の還暦を迎えられる皆さんから、日吉神社と奇明神社に奉納されるしめ縄の作成依頼を受け、11月20日と12月5日の2日間、江頭町公民館で至誠寿会の会員による「ひねり垂らしつくり」と「しめ縄づくり」が行われました。もち米のわらを、穂が出る前の8月の始めに刈り取り乾燥させた後、変色を避けるため室内に置いてこの日まで保存しました。出来上がったしめ縄は12月20日に奉納されました。

12月7日



マスクをつけて「よし、がんばるぞ!」

近江牛ブランドの維持発展に取り組む「おうみ」和牛繁殖協議会が、コロナ禍の必需品であるマスクを通じて、会員間の連帯感を高め、生産意欲を少しでも向上させようとオリジナルの布マスクを作成しました。会員や家族、従業員に配付する目的で200枚を準備。黒毛和牛をイメージした黒色をベースに鮮やかな黄色の「近江牛」の文字がプリントされています。同会会長の山形満さんは「街中でマスクをつけた会員らを見かけられた時は『(近江牛の)生産者も頑張っているな』と思ってもらえれば」と話していました。

11月21日



新しくなった白鳥町自治会館に子ども用ボルダリング設備が登場

老朽化により新築移転した白鳥町自治会館に、自治会の子どもたちが楽しめるボルダリング設備が登場しました。新築移転をきっかけに、子どもたちも気軽に親しめる設備をつくろうと、大広間の一部の天井を吹き抜けにして、高さ3.8m、幅約3mのボルダリング設備を設置。11月の竣工後、さっそく子どもたちが壁をよじ登り、ボルダリングを楽しみました。自治会長の平井薫さんは、「ロープで支える大人と一緒に遊べます。遊び心のある設備で、世代を超えた自治会内のつながりを広められるきっかけになれば」と話していました。

11月15日



手作り甲冑で安土のまちを武者行列

毎年、信長の命日に近い6月初旬に開催される「あづち信長まつり」。コロナ禍の影響を受け、まつり全体は中止となりましたが、「あづち信長まつり甲冑クラブ」による紙製の手作り甲冑69領のお披露目を兼ねた武者行列が行われました。明智光秀隊、佐佐木六角隊、徳川家康隊、織田信長隊の4つの武将隊が安土の街中を練り歩き、文芸の郷に集結。八幡中学校の太鼓クラブ「八中太鼓」と「あづち信長出陣太鼓」が太鼓演奏で出迎え、会場に花を添えました。

12月4日



親子で楽しむ暖かなヨシ灯り

八幡小学校の中庭「太陽の広場」で5年生の児童らが制作したヨシの立体作品をライトアップする校内ヨシ灯り展「八小ヨシと光の夕べ」が12月中に3日間、開催されました。「西の湖ヨシ灯り展」実行委員会が協力し、材料となるヨシを提供するほか、作り方を指導。約1週間をかけて5年生129人全員が1人1点ずつ制作しました。この日は、オープニングセレモニーとして5年生のヨシ灯り実行委員会のメンバー10人がカウントダウン。会場に並べられた作品に一齐に灯りがともると、訪れた親子らから「きれい」と歓声が上がりました。